

『井（医）の中の蛙』

昔から言い伝えられた言葉であるが、いまだに実感させられることが多い今日この頃である。

年末に大阪私立病院協会の10人余りの方々と一緒に、東南アジアを旅行する機会に恵まれた。

ちょうどタイの北部が何十年来の大洪水に見舞われ、首都バンコック圏域までも洪水が押し寄せてきていると報道されていた。予定を変更し、ベトナム経由で、ラオス、カンボジア、ハノイに行くことになった。

空から見ると広大な湖が、農地、平野、住宅などを呑みつくし一面巨大な湖のようになって見えた。洪水は報道されているタイのみならず周辺の国々でも起こっていたのである。

ベトナム中部では100人以上が洪水で死んだとのことである。

最初はそれほど期待をしていなかったのだが、実際その地方に旅行して、現地で人々の生活ぶりを見聞きしていると、どれほど貧しい生活を毎日送っているのかが実感させられる。子供が稼ぐ、観光客からの1ドル、2ドルの収入が一日の生活の足しになっていることがよく分かる。ホテルや劇場で、これらの国々のすばらしい伝統芸術を見せられると、そういった現実には忘れさせられる。世界無形文化遺産にも登録される予定のハノイの水上人形劇には目を見晴らされた。

カンボジアのアンコールワット、アンコールトムは現場で見ると圧倒される。千数百年前に建造されたこれほどの石造建造物、彫刻のすばらしさは世界に類を見ないように感じられた。一回の訪問ではとても見切れない。

これらの国々には学校にも行かず、文字の書けない貧しい人が何百万、何千万人いる現実がある。利用されない広大な土地、山野もある。日本がこれらの国々に果たすべき多くの役割がある。医療、福祉制度、事業などでも、国や個人が貢献できることが多いのではないかと思う。これからの若い人は、狭い日本に閉じこもらずにどしどし海外に出て活躍をしてほしいと思う。逆に海外の有能な人材を日本に来てもらうことを積極的に考えても良い。いくつかの日本の電機メーカーや自動車の広告、工場、支店がバスの沿道から見かけられた。

昔、当尼崎中央病院が木造建築であった頃、安河内先生（元日赤看護婦長）が看護師の教育に当たってよく言われていた言葉を思い出す。

“井（医）の中の蛙”になるなど。